9/18 朝日

「闘いはこれから」

安保法案反対 座り込み続く

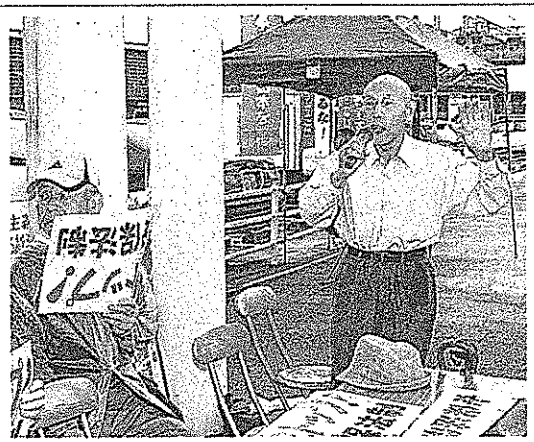
安全保障関連法案に反対する座り込み行動（JR福井駅東側広場）は17日、参議院で採決手続きが進む中で4日目を迎えた。雨にたたられたが、「民主主義の危機」を訴える参加者が続々と駆けつけて、最終的には60人を超えた。

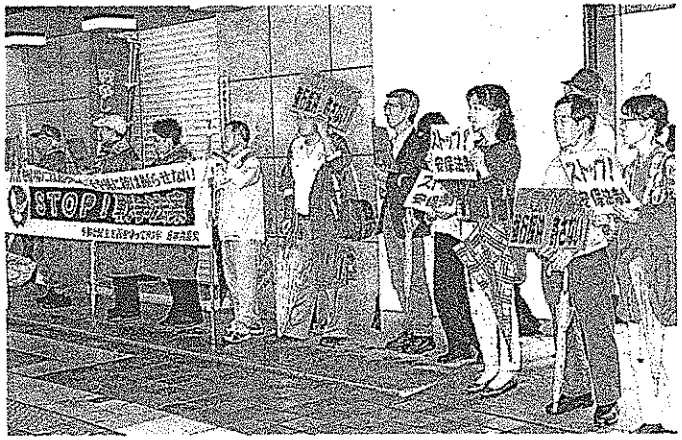
午後3時12分　強い雨。集まった人は最初約10人。反安保法案の「断食祈念行動」を10日午前6時から県庁前で始めた坂井市の石森修一郎さん(68)が合流し、「おなかがすいて声が出ないんですが……。特定秘密保護法、集団的自衛権容認の閣議決定、そして安保法案強行と負け続けてきた。しかし、負けてもまた始めればいい」

午後3時19分　福井エスペラント会代表の北川昭二さん(72)が「憲法を守るべき総理が改憲を訴えるのは、泥棒が刑法を変えろと主張するのと同じだ」

午後4時　福井市の山本勝美さん(85)が杖と傘を持って来た。15歳の時に予科練に入った。「殺すか殺されるか、それが戦争の真実だ」という当時の上官の言葉を紹介し、張りのある声で続けた。「始められるが歯止めがきかない。それが戦争です。人を殺したら勲章をもらえる、人間性が阻害されるのが戦争です。だから人間のすることでは無い。自民党は戦争をする国にしようとしている。これを変えるには国民が反対の世論を盛りあげるしかないんです」。この日最大の拍手が起きた。

午後4時10分　福井大学准教授の長谷川裕子さん(43)は「民主主義国家崩壊の危機だ。一人ひとりが発言していかなければ」





自らの軍隊体験を語り、安保法案反対を呼びかける山本勝美さん＝福井市のJR福井駅前　街頭演説会で、横断幕やカードを掲げて安保関連法案の採決に抗議する人たち＝福井市大手3丁目

「強行採決」怒りの声

安保関連法案の参院特別委での採決を受け、市民団体「ストップ！　安保法制、県民集会実行委員会」は17日夕、福井市の中央大通りで「街頭演説会」を開いた。

小雨の中、約50人が「戦争法案　強行採決　許さない！」「ストップ！　安保法制」などと書かれた横断幕やカードを掲げた。

街宣車の上では、民主党県連の山本正雄代表、共産党県委員会の南秀一委員長、社民党県連合の龍田清成代表、市民グループの代表や弁護士らが次々とマイクを握り、「きょうの強行採決を怒りを込めて糾弾したい」「平和な福井県を守るため、何としても安保法案を粉砕したい」などと声を大にした。

（堀川敬部）

午後4時45分　参院特別委で採決のニュースが参加者に伝わる。以降、参加者の声の調子が上がる。

午後4時56分　弁護士の島田広さん(47)は昨年7月、集団的自衛権に関する閣議決定を知り、10歳になる我が子を思って涙を流した。「どうして、この子に戦争を残さなければならないのかと悔しくて」と。

「今日も同じ思いをするのは残念だが、状況を変えていく闘いはこれから。憲法をどう血肉化していくのかという闘いだ」

午後5時22分　通りかかった永平寺町の会社員男性(27)が、自分も意見を述べたいと来た。「悲しいです。強行採決する時間があるならば、国民と話し合う時間を設けるべきです。若い人を戦場に送る予算があるならば、災害で苦しむ人のために、人を助けるために、お金を使うべきです」。大きな拍手が起きた。

（下地毅）